

うね 畝のある風景

「農」をコミュニケーションの核としたコレクティブ居住の提案

背景

本提案の背景には
修士2年間の活動を
通じて出会った、
3つの事柄があります

新潟県十日町市における【地域力】



【暮らし縁】で住まうという考え方

私の興味…集まって住むこと

集まることによって空間と時間を合理化
→よりゆとりのある豊かな暮らし

私の疑問…同じ家に住めば家族？

家族構成に定型がなくなりつつある現代社会
→家族だけが同じ家に住むことに疑問を感じる

一冊の本

「家族と住まない家 血縁から(暮らし縁へ)」
血縁や婚姻関係を越えた住まい方をしている10人と建築家、社会
学者へのインタビューをまとめた本
→コレクティブハウスの存在・(暮らし縁で)住まいあうという
考え方を加り、可能性を感じる

世田谷区烏山【屋敷林】と【都市農地】



リサーチ①

時間的・空間的ゆとり。
集まって住む豊かさ。

「コレクティブ」な
暮らしに可能性を感じ、
実際に行ってみました

コレクティブハウス【かんかん森】



【松陰コモンズ】シェアード型コレクティブリビング



コレクティブハウスとは？

定義

1棟あるいは一住宅団地内に 独立完備した複数住戸のほかに
豊かな共用室や設備が組み込まれている住宅

歴史

1970年代、北欧の働く女性たちによって考えられた
すべての人に開かれた住コミュニティだが、特に
・小さな子供を持つ共働きと片親世帯
・子供が独立したシニア層
に支持され、取り組まれている

共用室＝住戸の延長

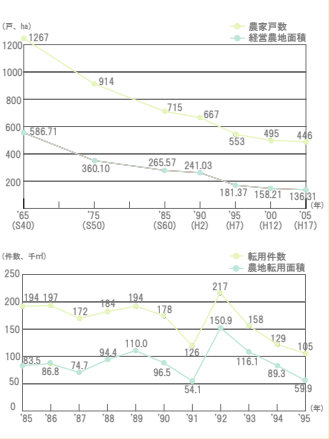


リサーチ②

「世田谷の農業」は
今どうなっているの？

現状を把握し、
新しい取り組みについ
ても調べてみました

経営農地面積の推移・転用状況



【ファミリー農園】(区民農園)



【砦クインガルデン】



会員制貸し菜園【アゲリス成城】



市民参加型農業【農業体験農園】



農業体験農園とは？

農家自らが開設する農業体験農園は、農地所有者と入園者が一体となって農
業を行なう市民参加型の農業です。
平成8年に練馬区ではじめて開設されました。
世田谷区では平成18年3月に「羽根木農業体験農園」、平成19年3月に「千歳
台体験農園」が誕生しています。

特徴

農園主が講習会等を通じて入園者の質問に答え、技術の指導に当たる
→初心者でも高品質の農産物が収穫できる

農地所有者は農業経営の中の作業をレクリエーションとして入園者に体験させる
→収穫や流通に関する作業の省力化と所得の安定を実現できる

農地所有者が自ら耕作する農地である
→生産緑地であれば相続税納税猶予の対象となる

都市住民と「農」の出会いの場



八反畑

以前 下山さんが所有していた「八反畑」を 現在所有している畑とつなぎ、さらに烏山通りを挟むことにより、連続するランドスケープをつくり出す。



昭和29年頃の下山さんの畑



向かいのマンションから
屋敷林を見る
こんもりと茂る森のよう

市民緑地制度

都市に残された民有地のみどりを保全し、豊かな環境を未来に残していくための制度。
財団法人「世田谷トラストまちづくり」と契約を結び、地域に公開することによって憩いの場としてみどりを活かしながら守っていく。所有者は維持管理や固定資産税・都市計画税・相続税について優遇措置が受けられる。



北烏山9丁目屋敷林市民緑地



現在の下山さんの畑

宅地化されていく都市農地

先祖代々の土地を守るため
その土地に住まいながら
屋敷林を市民緑地として
パブリックに開く

それは地域資産
残したいみどり

設計概要

用途

畑付き集合住宅+付属施設
レストラン・ライブラリタワー・広場・野菜直売所・屋敷林

敷地

敷地: 世田谷区北烏山6・9丁目
用途地域: 第1種低層住居専用地域 第2種高度地区

データ

敷地面積: 37,303㎡ 総戸数: 281戸
建築面積: 9,457.3㎡ 総農地面積: 7,983㎡
延床面積: 16674.8㎡

設計ポイント

地域の緑を守り、はぐくむことのできる住まい
→ **農家の新しい経営形態の提案**
住民間・地域間コミュニケーションの生まれる住まい
→ **「農」をコミュニケーションの核としたライフスタイルの提案**
時間や空間を合理化し、暮らし縁で住まうこともできる住まい
→ **コレクティブ居住の提案**

下山さんを園主・大家とした 農業体験農園×コレクティブハウス

農業
×
コミュニケーション
×
開発
×
保存

全体計画

クラ
農のライブラリ&タワー
農業に関する本が高く積まれた図書館兼展望台

ヤシキリン
防風林&パーキング(38台)
武蔵野の原風景 木陰は駐車場になっている

カマヤ・イロリバタ
1階: かまどのある土間(竈屋)
2階: 獲れた野菜が食べられるレストラン(囲炉裏端)

ナヤ
野菜直売所
収穫された野菜が買える 敷地内に2か所

ホシバ
広場・イベントスペース
GL-1850mmの広場 住民と同じ目線を味わえる



全体の配置計画は
既存の畑の「畝」の
方向を踏襲して
決定しました

住宅だけでなく
地域に開かれた
施設も計画しました

畝のある風景

「農」をコミュニケーションの核としたコレクティブ居住の提案

配置図 1:1000
北烏山6・9丁目地区

平面ダイアグラム

デザインのキーワードは
「畝」（うね）
平面にも断面にもうねが
あらわれます

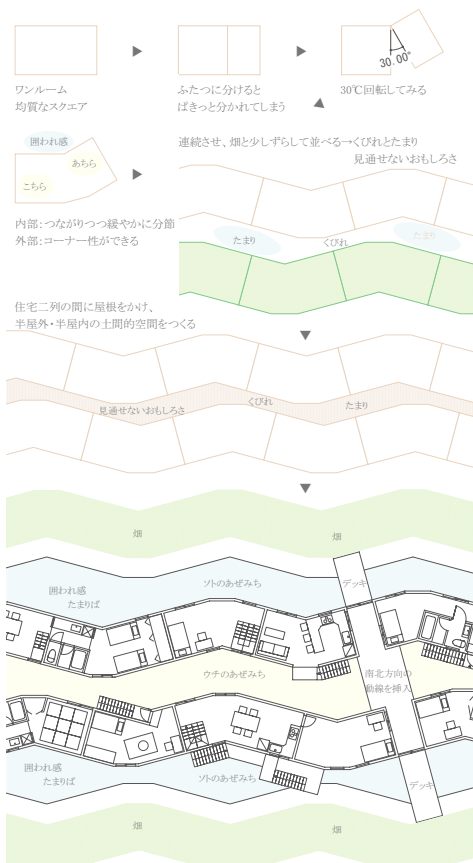
畑の面積から住宅の面積を決定し、平面的にうねらせることで魅力的な内外空間をつくりました

特徴的な共有スペース
ウチのあぜみち
ソトのあぜみち
ヤネのあぜみち(屋上)
ができました



	住宅	煙専有面積 15m ²	
	煙	ルームの基準面積 15m ²	

砒クリンガルテンでのヒアリング・既往研究より、住宅と畑に近い方がよいとがわかった
→自分の家から自分の畑が見える計画
リサーチより、畑の専有面積は15㎡を基準とする
→ルームの基準面積も15㎡とする



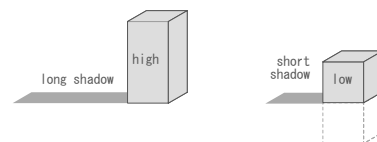
断面ダイアグラム

都市農地での問題点：日照
住宅が密集する市街地での
農業は、近隣の住宅の影が
問題です

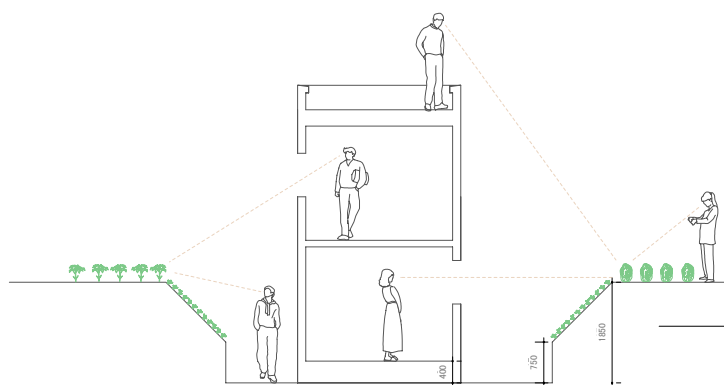
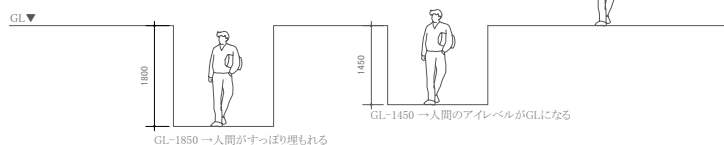
住宅を沈めることによって
様々なレベルから、畑を眺
めることができるようになりました

畑と住宅が連続する断面は
畑の畝のようです

自分の畑を自分の家から見たい⇔なるべく農地に影を落としたい
相反する欲求を解決する方法……住宅を沈める

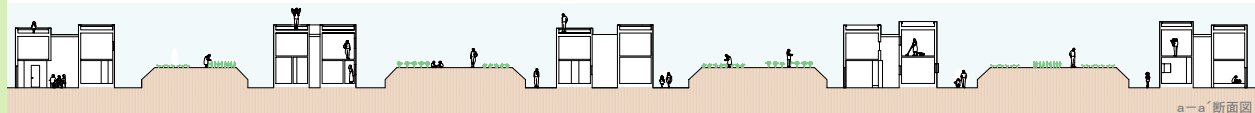
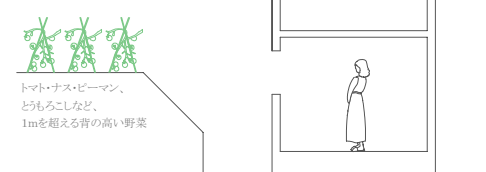


住宅が沈む
→アイレベルに変化がおこる



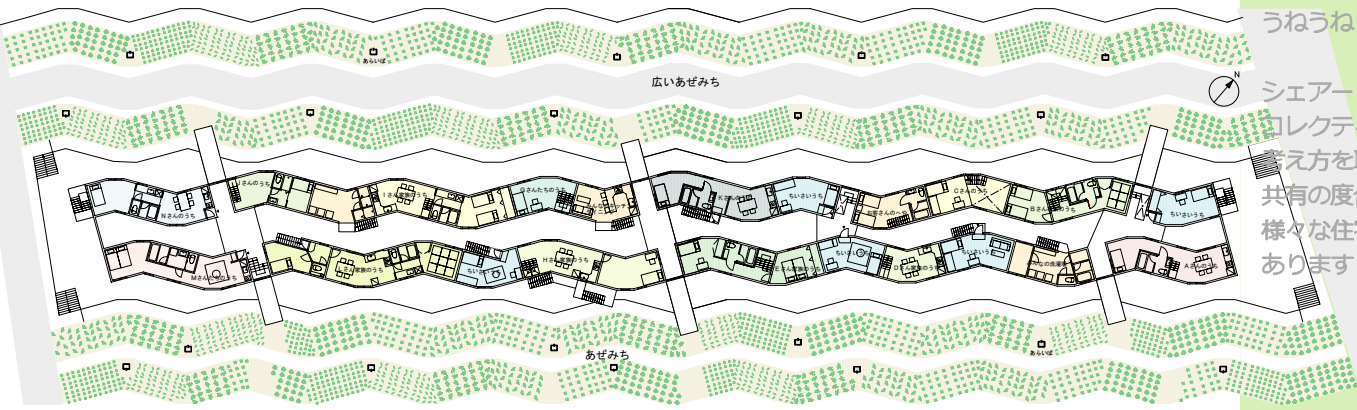
GLから1850掘り下げ、45度にカットして日照を確保。
のり面には日陰でも育ちやすいフキやミョウガ、ミントなどを植える。これらは一度植えたら毎年収穫できる。

季節によって変化する風景



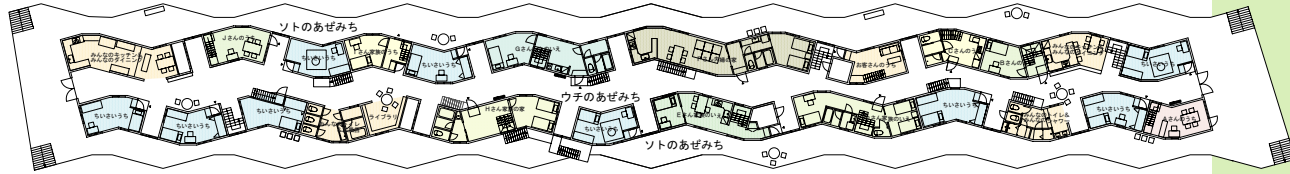
平面図

うねうねとつながった住宅



1階平面図

シェアード型
コレクティブリビングの
考え方を取り入れて
共有の度合いの違う
様々な住宅が
あります



2階平面図

住戸専有面積
17.2㎡~68.8㎡
農地専有面積
15㎡~34.4㎡
家族構成1~4人

断面図

畑に影を落とさない
⇒高さをなるべく抑えたい

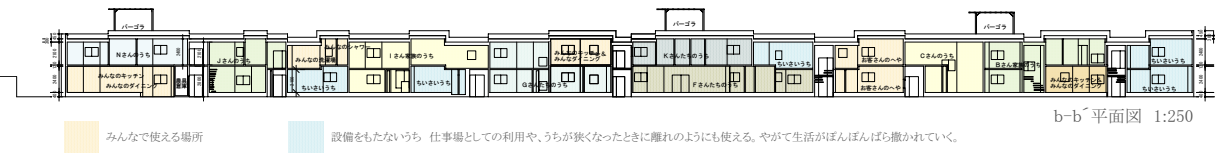
階高は建築基準法最低ラインの2100mmと
+300mmの2400mmの2種類とし、
平面的に考えた「つながりつつ緩やかに分節」することを
断面的にも考慮する。
ルームにさらに場所性を。



2100mmと2400mmの2種類の階高
⇒2階は1階の階高の影響を受け、レベル差ができてゆく

2階の階高も同様に差を付ける
⇒3種類の高さができる

⇒レベルの差がそのままファサードに現れて、
リズムができてゆく



b-b'断面図 1:250

みんなで使える場所

設備をもたないうち。仕事場としての利用や、うちが狭くなったときに離れのようにも使える。やがて生活がぼんぼんばら撒かれていく。

14戸の「ちいさいうち」
設備は何もありません
プランの違う14戸と
合わせて一棟に28戸

畝のある風景



敷地面積：37,303㎡
建築面積：9,457.3㎡
延床面積：16,674.8㎡
農地面積：7,983㎡
総戸数：281戸

敷地周辺の
面積に対する
農地の割合
8.1%

敷地周辺の
面積に対する
建築面積の割合
18.3%

畝のある風景の
敷地面積に対する
農地の割合
21.4%

建蔽率25.3%
容積率244.7%



うねうね
畝のある風景
「畝」をコミュニケーションの場としたコレクティブ居住の模索